

新藤信夫市政ニュース

平成31年3月

Vol.28

発行:自民党真政さいたま市議団大宮区西支部
TEL 647-7713
FAX 647-7726



へご挨拶

新藤信夫

立春も過ぎ寒さや和らぐ季節となつて参りました。大宮区の皆様には、さいたま市政に対しご協力を頂き、「ご意見・ご要望を頂いておりますことに感謝申し上げます。

さいたま市は3市合併(平成13年5月、大宮市、与野市、浦和市が合併)から18年、政令市に移行(平成15年5月)してから16年が経過しようとしています。昨年9月には人口が130万人を突破し、人口規模で全国9番目の大都市に発展しました。ここ数年、年間約1万人の人口増加が見られ、20代、30代、の若い世代の転入者が多く、今後10年程度はさらに人口が増加するものと予想されています。その一方で進む高齢化は本市にとっても重要な課題であり、ますます元氣なさいたま市を築いて行くためには高齢者の働く場確保や居場所作りが課題となっています。また、公共施設の老朽化も進んでおり、さいたま市では公共施設マネジメント計画に基づき建物再編や改築に取りかかっています。道路橋の修繕計画も進められており、上下水道管路は年次計画に基づき更新するとともに耐震化も進めています。

予算議会である2月議会も3月8日で閉会となり、平成31年度予算が成立しました。その予算規模は一般会計が5,568億円、特別会計が3,118億円、企業会計が1,380億円、これを合計した全会計で1兆66億円の最大規模の当初予算となりました。新たな時代の幕開けにふさわしく、人口減少が始まると予想される10年後までの「運命の10年」を念頭においた予算となつたと考えられます。さいたま市ではこの10年間に、その後人口が減少して税収が縮小していても市民が安心して暮らせる政策が打てるよう今から準備する必要があります。

さて、皆様もご存じの通り、今年4

月で平成が終わわり5月から新しい年号に変わる年であり、日本にとって新たな時代のスタートを切る年となります。さいたま市や大宮区にとりましても新たな施設が開設され大きな変革の年となります。3月28日には大宮駅東口駅前東北・上越 北陸地方の新幹線等が結ばれた主要都市の物産の展示・販売や企業交流を進める「東日本交流支援センター」がオープンします。次に、4月5日に三橋4丁目にある市立大宮西高等学校を前身とするさいたま市立大宮国際中等教育学校が開校します。そして5月7日には「大宮区役所」が現在の大門町3丁目から吉敷町1丁目に新築移転となります。

そして9月にはラグビーワールドカップが埼玉県内では熊谷市を中心として開催されて、さいたま市内ではロシアチームのキャンプ地となります。10月には消費税が8%から10%上がります。景気対策としてプレミアム商品券の発行や自動車車体税の減税、キャッシュレス化の推進なども行われることとなります。同時期に幼児教育の無償化もスタートします。

このような変動の大きな時代こそ市民に身近な市議会議員として市民の皆様のご意見をよく聞き、市政に反映させることを怠ることのないよう努めて行きたいと思っております。



岸田自民党政調会長と村井内閣府大臣政務官に税制改正に関する要望書を提出

平成31年度予算可決

予算総額1兆66億円 過去最高額の当初予算

2月6日に開会した2月定例会が3月8日に閉会し、最終日の採決で平成31年度予算が可決成立しました。予算の特徴としては10年先の新たなさいたま市の創造に向けた充実予算とした上で、「市民一人ひとりが幸せを実感できる都市」、「誰もが住んでいることを誇りに思えるさいたま市」を実現するために「しあわせ倍増プラン2017」等の施策を着実に実施する事業に重点配分する予算となりました。

具体的には、①東日本の中枢都市としての地位を確立するため、東日本連携の取り組みを加速化させ東日本の対流拠点にふさわしい都市機能の充実を図る。②東京オリンピック・パラリンピック大会を契機としてスポーツに対する関心や意欲が高まる中で、活力のある「スポーツのまち、さいたま」の実現に向けて健康増進につながるスポーツ環境の充実を図る。③少子高齢化社会の急速な進行、地域コミュニティの低下に対応するため、子育てを応援し、誰もが健やかに安心して暮らせる環境や、きめ細かく質の高い教育環境の充実を図る。以上の3つの柱を中心として組み立てた予算となりました。

歳入は、緩やかな景気の伸張による個人所得や企業収益の伸び、本市人口の増加等に伴う納税者の増加を背景にした市税収入の増加が見込まれています。それにより市債の発行は縮減することとなりました。

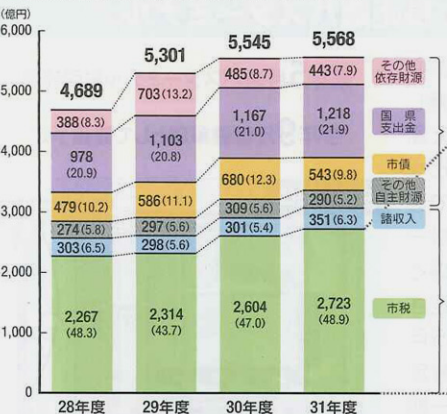
歳出は、大宮区役所や小中学校等、大型施設整備等の事業完了に伴い普通建設事業費が大幅に減少しましたが、社会保障関係経費(扶助費等)は大幅な増加が見込まれています。

収支不足は財政調整基金繰入金で補填することとなりますが、その予算額は前年度よりも微増となりました。

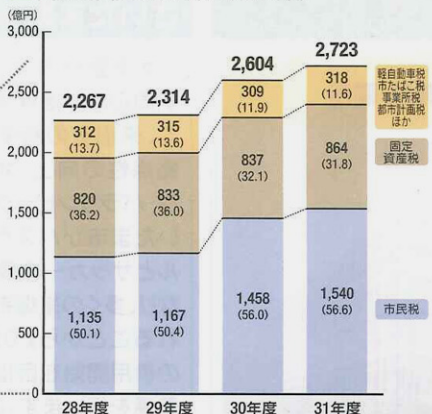
※財政調整基金とは、自治体が財源に余裕がある年に積み立て、不足する年に取り崩すことで財源を調整し、計画的な財政運営を行うための貯金。(コトバンクより)

一般会計	5,568億円	前年度比	+23億円	+0.4%
特別会計	3,118億円	前年度比	+31億円	+1.0%
企業会計	1,380億円	前年度比	+74億円	+5.7%
全会計	1兆66億円	前年度比	+128億円	+1.3%

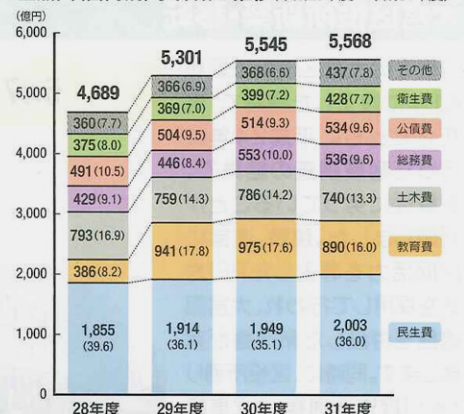
歳入予算額の推移(平成28年度～平成31年度)



市税の推移(平成28年度～平成31年度)



歳出(目的別)予算額の推移(平成28年度～平成31年度)



※グラフの()内は構成比 ※区分ごとに四捨五入しているため、各数値の合計と合計額は一致しない場合があります。

開発進む 大宮駅西口・さいたま新都心駅東口

大宮駅西口

さいたま市は東日本の交通の要衝であり、1日に69万人が利用するターミナルである大宮駅があるにもかかわらず国際会議や展示会といった「MICE」の誘致に苦戦しています。特に外国人が多く訪れる国際会議は経済波及効果が大きいですが、さいたま市での開催は年間5~10件で横浜市(年間約200件)や千葉市(年間約30件)に比べて遠く及びません。また、会議後に観光を楽しむなどアフターコンベンションにも課題が多く、この弱点の一つが宿泊施設の不足です。市内のホテル旅館の部屋数は約3,000室で千葉市の3分の1にも満たない。市は容積率の緩和を行うなど宿泊業者の進出しやすい環境整備を進めてきました。これに応える形で東京建物が昨年夏から大宮駅から徒歩5分ほどの場所に14階建て321室のホテルを建築中で、今年の夏に開業を予定しており宿泊施設の機能強化につながることが期待されています。また、今年はその大宮店近くにも川村建設の関連会社が12階建てホテル建設に着手する予定となっています。

また、ソニックシティの北側(3-B地区)では、丸紅や三井不動産レジデンシャルなどが参画する再開発組合が13,000㎡の土地に商業施設と住戸約600戸からなる14階建てと地下1階、地上28階建ての複合ビルを建設する予定で、今年中に着工し3年後の完成を目指しています。さらに、その西側の隣接地(3-AD地区)では商業施設やオフィス、住戸約260戸の入る複合ビルが計画されており、今年中に再開発組合を設立して、2年後に工事に着手する予定としています。また、桜木駐車場を含む第5工区の中央には南北と東西に2本の都市計画道路予定されています。これらの再開発等の計画は、大宮駅の大改装と東口の駅前再開発を目指す、大宮駅グランドセントラルステーション化構想とともに大きな注目を集めています。

さいたま新都心駅 東口

一方、さいたま新都心駅東口の三菱マテリアル跡地ではUR(都市再生機構)による土地区画整理事業もほぼ完了し、その一角の2.6haに東京建物や野村不動産など6社が販売するシントシティが昨年9月から工事が始まっており、来年から再来年にかけて15階建てマンション5棟(約1,000戸)が完成し、さらには翌年には400戸分のマンションが完成し県内最大級のマンション群となる予定となっています。また、しまむら本社ビルの工事も昨年11月に着工しており、地下1階、地上12階の店舗も兼ねたビルが2年後に完成する予定です。この東側の隣接地には、長距離交通の利便性向上を図ることを目的として、さいたま市が長距離バスターミナルの整備を計画していて、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに完成させることとしています。

大宮駅西口の再開発計画



さいたま新都心駅東口の風景は大きく変わる



東日本連携支援センター開所

大宮駅東口、目の前の銀座通りに面した、三井住友信託銀行が所有するビルを借りて、さいたま市が開設し、さいたま市商工会議所に運営を委託し開設します。1階は東日本連携に参加する都市の名産品等のテストマーケティングのエリアとして、2階は各自治体のアピールや企業間の連携を生み出す情報発信や交流の場として活用されます。

3月28日オープン



改装工事中の旧三井住友信託銀行大宮支店ビル

さいたま市立大宮国際中等教育学校開校

さいたま市立大宮西高等学校を前身とした、さいたま市としては初めての中等教育学校で、中学校1年生から高等学校3年に当たる6年間の一貫校です。グローバルに対応した教育を特色として、国際バカロレアの取得を目指し、姉妹都市であるピッツバーグ市の大学との提携も予定しています。大宮西高は31年度で閉校となります。

4月5日開校



完成間近となった新校舎

大宮区役所新築・移転

現在の大宮区役所は昭和41年に竣工した建物で、老朽化とともに平成24年に行った耐震調査の結果で、耐震性に劣っていることが判明しました。建設、運営に民間活力を導入したPFI方式を採用して行われ、大宮図書館を併設した新庁舎が完成します。同時に、区役所通り(氷川緑道西通線)も2車線で開通し、大宮駅からの路線バスが運行されます。

5月7日移転 開所



爾をイメージした新区役所庁舎が完成する

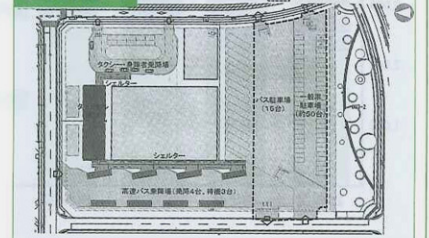
さいたま新都心に長距離バスターミナル

大宮駅やさいたま新都心駅周辺の交通環境を改善して、来街者の利便性と交通拠点性の向上、オリンピック・パラリンピック大会でさいたま市がバスケットボールとサッカーの競技会場となり、多くの来場者が想定されることから2020年5月の供用開始を目指して暫定整備を行います。また、一部に一般車の駐車場も整備します。

来年5月頃バスターミナル供用開始

今年9月頃駐車場として開設予定

全体平面図



オリンピック・パラリンピックの開催に向けて暫定整備を行う